

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter

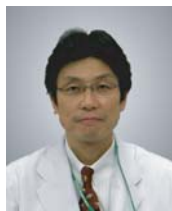


平成25年度 第2号
2014年1月27日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

新年、明けましておめでとうございます。

平素は近畿地方会の運営にご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

さて、先般、公益社団法人日本リハビリテーション医学会（以下、リハ医学会）の代議員選挙が告示されました。近畿地方会の地区正会員数は1835名であり、関東地区（2717名）に次いで多く、近畿地区の代議員定数も合計294名中55名（18.7%）を割り当てられています。

代議員は、定款第4章で規定される社員であり、会員資格、会費の額、会員の除名、理事・監事の選任・解任、貸借対照表及び損益計算書の承認、定款の変更などを社員総会にて議決する権利と義務を負っています。

平成26年1月20日には立候補者名簿と所信表明が公表され、2月13日までweb上あるいは郵送による投票が行われます。

CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 1 頁
- ◆近畿地方会各府県内におけるリハビリテーション活動 .. 1-2 頁
- ◆新専門医に聞く 3 頁
- ◆第1回近畿地区新専門医交流会の開催報告 3 頁
- ◆第36回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 4 頁
- ◆第36回近畿地方会開催概要 4 頁
- ◆50周年記念市民公開講座ご報告とお願い 5 頁
- ◆2014年度近畿地方会研修会カレンダー 5-6 頁
- ◆編集後記 6 頁

代議員はリハ医学会の中での近畿地区の代表であり、また、理事・監事の選挙権、被選挙権を有していることから、近畿地区の会員の声をリハ医学会理事会に届けることができるという大切な役割を負っています。

ご多用とは存じますが、近畿地方会会員の皆様におかれましては、近畿地区の代表を選出するという気持ちで、棄権することなく代議員選挙の投票を行って頂きますよう、よろしくお願い致します。

近畿地方会各府県におけるリハ活動

シリーズ2回目の今回は大阪府と滋賀県です。大阪府では、平成19年に大阪府立急性期・総合医療センター敷地内に、障がい者医療・リハビリテーションセンターが開設されています。このセンターは、障がい者医療・リハビリテーション医療部門（大阪府立急性期・総合医療センター）、大阪府障がい者自立相談支援センター、大阪府立障がい者自立センターの3つの部門で構成されています。一方滋賀県では、平成18年に滋賀県立リハビリテーションセンターが開設され、支援部門、医療部門（滋賀県立成人病センター）、身体障害者更生相談部門で構成されています。それぞれでご活躍されている先生に御執筆をいただきました。

大阪府

急性期集中治療から社会復帰の支援 まで一貫したリハビリテーション医療

大阪府立急性期・総合医療センター
リハビリテーション科 主任部長 渡邊 学

大阪府立急性期・総合医療センターのリハ科は、H19年3月に閉鎖された大阪府立身体障害者福祉センター附属病院を前身としています。大阪府では、旧大阪府立身体障害者福祉センターの更生施設を大阪府立障がい者自立センターと改名、さらに大阪府身体障害者更生相談所と大阪府知的障害者更生相談所を統合して大阪府障がい者自立相談支援センターとし、これらの施設を包括的に運営するため、H19年4月大阪府立急性期・総合医療センターに隣接して新たな建物を新設して障がい

者医療・リハビリテーションセンターが設立されました。

リハ科医師は7名（うち専門医5名）で、現在の主は業務は①；当医療センターでの急性期病棟でのリハ、②；87床のリハ科病棟の運営、③；リハセンターとの連携、よりなります。

①当医療センターの特徴は、高度救命救急センターや脳卒中センターの集中治療室に専従セラピストを配置し、必要な患者さんには搬入後よりリハ介入を行っています。またがん患者へのリハにも力を入れています。統合前にはリハ科のなかった当病院では、当初は整形外科や脳卒中の患者さんへのリハ依頼が大部分を占めていましたが、リハの有用性が普及するにつれ、殆どの診療科よりのリハ依頼が増加し、セラピストは当初PT18名、OT8名、ST4名で開始し、後毎年増員が必要となりそれぞれ、現在28名、14名、7名となり、また更なる増員計画もあります。

②リハ科病棟は49床の回復期リハ病棟と38床の障害者施設一般病棟からなります。病棟の性質上脳血管障害(回復期リハ)や神経難病(障害者一般)の患者さんが多くを占める傾向にあります。が、重度頸髄損傷や頭部外傷後遺症(高次脳機能障害)など

他施設ではリハが困難な症例を他施設からの紹介も含め積極的に診療にあたっています。またFIM GainやFIM Efficiencyをホームページ上に毎年更新しています。

③障害者医療・リハビリテーションセンターの連携を実例で示します。交通事故等で脳に傷を受けた患者さんが、第三次救急である当医療センターに運ばれます。救急診療科で治療を受け、後遺症が残った患者さんにはリハ科病棟でリハビリを行います。病棟では家庭生活や社会生活に適応するためのリハビリは難しいため必要例は自立センターへ移ります。一定期間の自立センターでの訓練後、リハビリ科外来とリハビリセンターと協力し復職出来る時は企業側に症状を説明し職場や業務内容の変更を勧めます。また新しい職場へはリハビリセンターを通じ、各種事業所を紹介し就職活動を支援します。また学校生徒の場合は学校側と連携し順調に復学出来るように支援します。

このような、連携を大阪府内全域でも円滑に行えるよう障害者医療・リハビリテーションセンターでは、例えば高次脳機能障害に関しては、医療機関、各事業所をまとめた資源マップ、また脊髄損傷、脳性麻痺では医療機関のネットワークを作成し、福祉と医療を有効利用出来るようするなどして患者さんの治療・支援を行っています。文字通り急性期集中治療から社会復帰の支援まで一貫した体制を他疾患でも実現できるよう努める次第です。



滋賀県

滋賀県における リハビリテーションの展開

滋賀県立リハビリテーションセンター 清水 彰

1 滋賀県におけるリハビリテーション提供体制の構築に向けて

滋賀県では平成17年にリハビリテーション連携指針を策定し、二次医療圏域の基幹病院を中心に地域リハビリテーション広域支援センターの整備を進めてきた。その後、平成22年からは地域リハビリテーション広域支援センターに代わり、地域医療再生計画の中で各市町においてセラピストを配置することとなった。平成25年現在は県内2圏域で地域リハビリテーション広域支援センターが残り、委託を含めて19市町中9市町でセラピストが配置されており、セラピストの関与がないのは2市1町のみとなった。

平成19年から県立リハビリテーションセンター(平成18年開設)が県の支援センターとして指定され、県の支援拠点として活動している。

平成23年には連携指針が改定され、平成24年には県の保健医療計画が改定された。その中で、リハビリテーションに係わる機関、団体、専門職が強固な連携の下に活動を展開していくことが明示された。

2 滋賀県連携リハビリテーション学会の開催

リハビリテーションには機能訓練のイメージが強いが、本来目指すところは、生活の確立、社会への再統合、あるいは全人的復権である。これを達成するためには、医学的、職業的、教育的、社会的リハビリテーションの提供者が、きめ細かに連携しながら支援、サービス提供を行う必要がある。

滋賀県ではリハビリテーション関連職種の有機的な連携や、職場での実践に即した研究・討論の場として、平成18年度から滋賀県連携リハビリテーション学会研究大会を開催している。平成25

年度で第8回の開催となった(写真)。多職種が連携して開催される県単位の学会は、他にはないと聞く。特徴は、多職種が集まる学会であることと、県、医師会、病院協会、など県内のリハビリテーションに係わる19の関係機関・団体で企画運営されていることであり、地域リハビリテーションの活性化に役割を果たしている。

3 滋賀県のリハビリテーションを推進する医師の会の活動

一方医師の活動については、「滋賀県のリハビリテーションを推進する医師の会」が平成21年度に発足し、研修会の開催を中心に活動している。

本会はリハビリテーション専門医のみでなく、リハビリテーションに関心のある医師が集まる会であり、リハビリテーションに関する調査、研修会開催を行っている。会員数は執筆時点で約70人に上る。

専門医が少ない中で、リハビリテーションに関心を持つ医師の輪が広がり、活発な活動が展開されることは、本県のリハビリテーションの体制整備に向けた大きな牽引力となっている。

今後2025年問題などの課題に、医師、関係者、関係団体が連携をはかりながら対応をしていかなければならないと考えている。

リハビリテーション医学会の皆様の御指導をお願いいたします。



新専門医 に聞く

平成25年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にける情熱は大きく、これからの地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。(平成25年度 第1号(通巻18号)からの引き続きの掲載です)

笠原 俊幸 近江八幡市立総合医療センター



はじめまして。このたびリハビリテーション医学会の専門医認定を受けました笠原俊幸と申します。10年間整形外科医として臨床活動を行った後、滋賀医科大学リハビリテーション科にて研修を行い専門医をとらせていただく事ができました。専門は運動器と関節リウマチになりますが、いまさらながらにリハ医学の範囲の広さと今後の日本における重要性に気がつき戦々恐々としている毎日です。趣味は登山だったのですが最近は一歩も登っていないので、メタボ・ロコモを予防するためにもまた再開したいと思っています。専門医としての知識と経験はまだまだ心もとないものがありますが、少しでも滋賀県のリハ医療に貢献できるよう活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

第1回近畿地区新専門医交流会の開催報告

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学 中村 健

平成25年10月19日(土)に、大阪医科大学において近畿地区の新専門医交流会を日本リハビリテーション医学会専門医会と近畿地方会の共催にて開催いたしました。この新専門医交流会は、関東地区では数年前より開催されており新専門医間で好評を得ている事もあり、近畿地区においても本年度より開催する事になりました。近畿地区では、平成25年度に22名の新専門医が誕生しています。また、平成24年度には11名の新専門医が誕生しており、平成25年度と24年度の新専門医33名を対象に参加を呼びかけ、新専門医交流会として演題発表会と懇親会を開催しました。

当日は、新専門医9名と近畿地方会幹事5名の参加があり、新専門医の先生方から演題発表が行われました。発表は、坂野元彦先生より「当院におけるリハビリテーションの取り組み」、辻野精一先生より「私の施設紹介」、内山侑紀先生より「当院の現状について」、阪上芳男先生より「リハビリ医学への自問自答」という4演題で行われました。各演題発表に対し参加者間において各施設におけるリハの取り組み、診療上の問題点、リハ医療に対する

意見など活発な意見交換が行われました。リハ医療に対する日頃の悩みや疑問などについての発言や意見も多くあり、新専門医交流会ならではの演題発表会になりました。また、近畿地方会副代表幹事の中土保先生より、近畿地区のリハ医が集まり活動している「リハせん会」の紹介が、新専門医の先生方に向けてありました。懇親会は大阪医科大学の地下食堂で行い、初めに近畿地方会幹事の阿部和夫先生に乾杯の挨拶を頂きました。懇親会では、自己紹介や情報交換が行われ参加者間の懇親を深める事ができました。最後に、参加者全員による記念撮影を行い、近畿地方会副代表幹事の菅本一臣先生より閉会の挨拶を頂き交流会は終了しました。

参加者からは、活発な意見交換と交流が行われ有意義な会であったとの意見が多く聞かれました。しかし、参加者が少なかつたとの意見もあり、今後は多くの新専門医の先生方に参加して頂き、交流をさらに広げていける交流会としたいと考えています。最後に、新専門医交流会に参加して頂いた新専門医、近畿地方会幹事の先生方に深く感謝いたします。



第36回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医 生涯教育研修会開催にあたって

第36回リハ医学会近畿地方会学術集会
会長 門 祐輔
京都協立病院リハビリテーション科

平成25年3月8日(土)に第36回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を京都府立医科大学付属図書館(図書館ホール)にて開催いたします。今回の生涯教育研修会では高齢社会に焦点を当て、地域包括ケア、転倒予防、高次脳機能障害をテーマに3名の講師の先生方

をお招きする予定です。千葉県千葉リハビリテーションセンターセンター長吉永勝訓先生には「地域包括ケア時代のリハ医の役割」、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース准教授青山朋樹先生には「転倒予防のエビデンスと新しい挑戦」、京都民医連第二中央病院病院長磯野理先生には「リハに必要な高次脳機能障害の知識とその応用」というタイトルで、御講演いただくことになっています。いずれの講演もリハに関わる医師にとって有益で、明日からの診療に役に立つものになると確信をしています。一般演題も活発な議論ができることを切に願っています。多数の先生方にお越しいただきますよう、よろしくお願いいたします。

第36回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年 **3月8日** (土曜日) 12:00～18:30

会場：京都府立医科大学附属図書館 図書館ホール

〒602-0857 京都市上京区清和院町口寺町東入中御霊410 電話：075-212-5400(代表)

会長：門 祐輔 (京都協立病院リハビリテーション科)

1. 一般演題 (認定単位：10単位予定)

発表形式：Mac PCの方は必ずご自身のPCをお持ちください。Windowsの方はPCでもUSBメモリーのみでも受付可能です(会場にはパワーポイント2003のパソコンを用意しています。その他のパソコンの方はPCを持参ください)。

2. 教育講演 (認定単位：30単位予定)

1. 「地域包括ケア時代のリハ医の役割」

千葉県千葉リハビリテーションセンターセンター長
吉永 勝訓 先生

2. 「転倒予防のエビデンスと新しい挑戦」

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
リハビリテーション科学コース准教授 青山 朋樹 先生

3. 「リハに必要な高次脳機能障害の知識とその応用」

京都民医連第二中央病院病院長 磯野 理 先生

参加費：2000円

受講費：3000円 (30単位一括)

事前申し込み：不要

お問い合わせ先

京都協立病院リハビリテーション科 門 祐輔
電話：0773-42-0440
E-mail：mon.intyou@gmail.com



京都府立医科大学 ※駐車場はありません。

- ・JR「京都駅(正面)」から市バス 4、17、205系統
→「府立医大病院前」にて下車
- ・阪急電鉄「河原町駅」から市バス 3、4、17、205系統
→「府立医大病院前」にて下車
- ・京阪電鉄「三条京阪駅」から市バス 37、59系統
→「府立医大病院前」にて下車
- または京都バス 23、43 系統
→「府立医大病院前」にて下車
- ・京阪電鉄「神宮丸太町駅」下車 徒歩 10分
- ・京阪電鉄「出町柳駅」下車 徒歩 15分

50周年記念市民公開講座ご報告とお願い

皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、日本リハビリテーション医学会は1963年9月29日に設立され、本年で設立50周年を迎えました。設立50周年を記念して、2013年9月29日には近畿地区において市民公開講座が開催されました。

この市民公開講座はMedical Tribuneの取材を受け、その講演内容についてwebサイトMedical Tribune Pro (<http://mtpro.medical-tribune.co.jp/>)内の

<http://mtpro.medical-tribune.co.jp/mtpronews/1310/1310039.html>

および

<http://mtpro.medical-tribune.co.jp/mtpronews/1310/1310016.html>

に掲載されています。どうぞ、ご覧ください。

なお、Medical Tribune では、web上に掲載されている記事をアクセス数により評価しています。今後、リハビリテーションに関する記事をMedical Tribune Proに掲載して貰うためには、一定以上の記事へのアクセス数が必要です。

今回の記事につき、多くの方に紹介し、記事へのアクセスをお願いしていただければ幸いです。ご面倒をお掛けしますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。

平成25年10月

日本リハビリテーション医学会近畿地方会 市民公開講座実行委員会

菅 俊光(関西医科大学附属滝井病院 リハビリテーション科)

(日本リハビリテーション医学会50周年記念事業準備委員会委員)

平林 伸治(大阪労災病院 リハビリテーション科)

大澤 傑(大阪行岡医療大学・行岡病院)

代表幹事 佐浦 隆一(大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室)

2014年度近畿地方会研修会カレンダー

第36回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日 時：2014年3月8日(土) 12:00～18:30

会 場：京都府立医科大学附属図書館 図書館ホール

〒602-0841 京都市上京区清和院町口寺町東入中御霊410 Tel 075-212-5400

京阪電車「神宮丸太町」駅下車徒歩10分、京都市バス「府立医大病院前」下車 徒歩3分

講演内容：1. 「地域包括ケア時代のリハ医の役割」

千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長 吉永 勝訓 先生

2. 「転倒予防のエビデンスと新しい挑戦」

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース 准教授 青山 朋樹 先生

3. 「リハに必要な高次脳機能障害の知識とその応用」

京都民医連第二中央病院 病院長 磯野 理 先生

担当幹事：門 祐輔 (京都協立病院 リハビリテーション科)

第51回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日 時：2014年4月19日(土) 13:15～16:35

会 場：京都府立医科大学附属図書館 図書館ホール

〒602-0841 京都市上京区清和院町口寺町東入中御霊410 Tel 075-212-5400

京阪電車「神宮丸太町」駅下車徒歩10分、京都市バス「府立医大病院前」下車 徒歩3分

講演内容：1. 「健康長寿と骨粗鬆症」

京都府立医科大学リハビリテーション部准教授 堀井 基行 先生

2. 「呼吸リハビリテーションー最近の話題と今後の展望ー」

京都桂病院リハビリテーションセンター部長 宮崎 博子 先生

3. 「脳卒中のニューロリハビリテーション」

兵庫医科大学リハビリテーション医学教室教授 道免 和久 先生

担当幹事：三橋 尚志 (大原記念病院)

第52回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日 時： 2014年7月26日(土)
 会 場： 関西医科大学附属枚方病院にて開催予定
 〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号 Tel 072-804-0101
 京阪電車・枚方市駅から「徒歩5分」
 講演内容： 1. 「パーキンソン病患者の姿勢障害へのリハビリテーション」
 京都府リハビリテーション支援センター センター長 武澤 信夫 先生
 2. 「運動器リハビリテーションの最近の話題」
 近畿大学医学部リハビリテーション科 教授 福田 寛二 先生
 3. 「革新的BMIリハビリテーション機器・手法の開発と臨床応用」
 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 教授 里宇 明元 先生
 担当幹事：長谷 公隆（関西医科大学附属枚方病院 整形外科講座リハビリテーション科）

第37回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年9月20日(土)
 場所：大手前病院第1～3カンファレンス室（京阪・地下鉄天満橋駅から徒歩5分）
 担当幹事：須貝 文宣(大手前病院神経内科)

第53回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年11月 滋賀県で開催予定
 担当幹事：川上 寿一（滋賀県立成人病センターリハビリテーション科）

日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年11月 兵庫県で開催予定

日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年11月 京都府で開催予定

第38回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日程：2015年3月7日(土)
 場所：兵庫医科大学 平成記念会館
 担当幹事：道免 和久（兵庫医科大学リハビリテーション医学）

編集後記

お詫び

当ニュースレターは近畿地方会会員のために情報発信と会員相互の交流を深めるなどの目的で発行されているものです。期日発行が求められていますが、進捗管理の不行き届きにより発行遅延が生じ、会員の先生方皆様および関係諸方面にご迷惑をおかけしたことを、紙面を借りてお詫び申し上げます。今後の適時発行に努めますので会員の先生方からのご意見ご指導をどうかよろしくお願いいたします。

広報委員会 委員長 川上寿一

